

仙台高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	0307		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 0	
開設学科	知能エレクトロニクス工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	必要に応じて指導員により指示される。				
担当教員	藤原 和彦				
到達目標					
校外実習を通して、企業等の生産現場や研究施設での体験による実践的知識・技術を習得し、座学と実学の差異を知ること。また、将来の進路等を決定するときの判断材料を得ること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
取組姿勢	社会人としての常識や規範を十分に理解・実践し、誠実な態度で実習に取り組むことができる。	社会人としての常識や規範を踏まえ、実習に取り組むことができる。	社会人としての常識や規範を踏まえた姿勢で実習に取り組むことができない。		
発表	簡潔かつ視覚的表現を考慮したプレゼンテーション資料を作成でき、論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行うとともに、適切な質疑応答をすることができる。	簡潔かつ視覚的表現を考慮したプレゼンテーション資料を作成でき、論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。	簡潔かつ視覚的表現を考慮したプレゼンテーション資料を作成できない、あるいは論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができない。		
報告書	正しい日本語で論理的にまとめられ、わかりやすい報告書を作成できる。	正しい日本語で論理的にまとめられた報告書を作成できる。	正しい日本語で論理的にまとめられた報告書を作成できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	長期休業中などに企業等の生産現場や研究部門で専門分野に関する実習を行う。就業体験を通して工学における学術応用の実際を体験するとともに、将来の就業意識を高める。				
授業の進め方・方法	実習に当たっては、社会人としての常識や規範に関する事前指導、実習企業等に関する事前調査を行う。研修は1～2週間程度の期間で行い、実習終了後には事後研修として報告書の作成と実習発表を行う。				
注意点	4年前期迄での学習を基礎に、自主性、自律性、計画性を発揮して、各人のプロジェクトテーマにおける課題の解決に取り組んでほしい。指導員やプロジェクトグループのメンバーとのコミュニケーションを絶やさぬようにし、自らに課せられた責任を果たすように努力してもらいたい。 なお、実習先での評価がなされなかった場合、報告書40%、発表60%により評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	※研修期間・内容は実習先により異なる		
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週	実習報告会		
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			

		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	専門的能力の実質化	インターンシップ	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	4	
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	4	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	4	
				企業における社会的責任を理解できる。	4	
				企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	4	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	4	
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	4	
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	4	
				社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	4	
実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	4					
評価割合						
	実習先での評価	発表	報告書	合計		
総合評価割合	30	40	30	100		
	30	40	30	100		
	0	0	0	0		